



ハツ 6101 ~ 269

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

高原町長 日高 光浩



今後の道路行政についての意見（提出）

当町の現状は 2 本の国道と 3 本の県道を主要道路といたしまして、それに接する 1・2 級町道を核とし、その流通形態を形成し、そして各種産業や生活の基盤として活用しております。

まず、地域の現状でございますが、現在格差社会と言われる中で、都会と地方とのインフラ整備の差が如実に表れ、地方での遅れには道路幅員の確保や歩道等の整備など直面している問題は山積みしており、特に改良が必要であるとの認識はあるのですが、財源等の不足により整備進捗の遅れや休止等にあるのが現状です。そこで町負担の軽い事業費の確立（高率補助）や国や県の代行事業の推進をお願いし整備の進捗を図っていただきたい。また、事業年度の短縮（5 カ年程度）を行い事業費の年度額を確保し、事業完了後の早期供用開始等、利用者への効率的活用を進めて欲しい。

最後に今後の整備や管理等地域の目指すべき将来像ですが、まず高原町では東九州自動車道路を拠点とした工業団地分譲売り出し中であり近在する 2 港（宮崎港、志布志港）へのアクセス時間が企業へのセールスポイントであるため、通過する国道 221 や 223 の整備は不可欠なものであり、また野尻～高岡～宮崎へと続く交通形態でも県道高原野尻線や有水高原線など改良を今後も要望し、また代行路線の確立へも今後計画を行いたい。なお、完成後には官のみならず地元住民をも巻き込んだ安全で安心な街作り行政を協同し維持していきたい。